



# 花咲くころ bloom

ご挨拶：岩波ホール創立50周年記念作品第1弾として、ジョージア(グルジア)映画『花咲くころ』を公開いたします。この作品には、女性監督の視点、戦争や暴力へのアンチテーゼ、第三世界の主張など、岩波ホールがこれまで積極的にご紹介してきた上映作品への思いが、新しい世代によって表現されています。今日、紛争は世界に拡がり、社会は混沌を深めています。少女たちのたおやかに生きる姿をおして、時代の明日へ思いを深めていただければ幸いです。 岩波ホール

## 世界中で数多くの賞に輝くジョージア(グルジア)映画の新しい風

伝統あるジョージア(グルジア)映画は『放浪の画家 ピロスマニ』『落葉』等、数々の名作を生んできたが、1991年にソ連邦から独立後、内戦、紛争が次々と起こり、社会も経済も大きな打撃を受けて、

国内は荒廃し、輝かしい映画の伝統は断たれた。しかし近年、映画は見事に復活をとげてゆく。新しい世代の作品が、世界の映画祭で数多くの受賞を果たしていった。

## 戦火の不安のなかで 強くのびやかに生きる少女たちを清冽に描く

『花咲くころ』は、ベルリン国際映画祭国際アートシアター連盟賞を初め、世界中の映画祭で高く評価され、30もの受賞を果たした。ジョージア国内が混乱した1992年の春から初夏にかけて、首都トビリシを舞台に、14歳の少女ふたりの成長を清冽な映像で描い

ている。市民が対立した内戦は、人々に大きな禍根を残した。しかし社会に不安がたちこめていても、ふたりの少女はつよい絆で結ばれ、春の日差しのようにのびやかだ。愛の歌をうたい、驟雨のなかを駆けぬける彼女たちの日々はみずみずしく美しい。

## 澄んだ眼差しで見つめる ジョージアの忘れてはならない時代

監督はナナ・エクフティムシュヴィリとドイツ出身のジモン・グロス。近年、ジョージアは女性監督の躍進が目覚しく、エクフティムシュヴィリ監督はその先頭に立つ。彼女の少女時代の思い出をもとに脚本は書かれ、映画は厳しい時代を生きる庶民の表情を映すとともに、

戦争や暴力の不毛さ、女性の権利についても主張する。少女のひとりエカの、周囲の大人たちの心を見つめる澄んだ眼差し。祝宴で突然踊りだす彼女の無言の思いが胸を打つ。主役に抜擢された少女たちは、サラエゴ映画祭で見事に最優秀主演女優賞に輝いた。

**STORY** 1992年春、独立後に起こった内戦のきな臭がが残るジョージアの首都トビリシ。父親が不在のエカは母親と姉の干渉に反感を感じている。親友のナティアの家庭はアル中の父親のためにすさんでいた。生活物資は不足しがちで配給には行列ができていたが、ふたりにとっては楽しいおしゃべりの時間だった。ナティアはふたりの少年から好意を寄せられている。ある日、ナティアはそのひとりランドから弾丸が入った銃を贈られた……



2.10(土)より“移ろいゆく時代”のロードショー

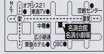
前売券発売中 ¥1,500 (税込) (当日一般 ¥1,800の処)

(劇場窓口及びプレイガイドにてお買い求めください。)

当日料金
一般：¥1,800
大学生：¥1,500
シニア：¥1,200
小・中・高：¥1,000

■自由席/定員入替制 \*来館児童のご入場はお断りさせていただいております。

\*観賞時と上映開始後のご入場は一切お断り致します。



錦通東新町・中電ビル東 052

名演小劇場 (931) 1701

http://meien.info